

日本—アフリカ 国際共同研究「環境科学」 2022 年度 年次報告書	
研究課題名（和文）	子どもと若者による地域に根ざした WASH（水、トイレ、衛生）モデルの共創
研究課題名（英文）	Co-creation of a community-based Water, Sanitation and Hygiene model with children and youth
日本側研究代表者氏名	山内 太郎
所属・役職	北海道大学 大学院保健科学研究院・教授 環境健康科学研究教育センター・センター長
研究期間	2022 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

1. 日本側の研究実施体制

氏名	所属機関・部局・役職	役割
山内 太郎	北海道大学・大学院保健科学研究院・教授 / 環境健康科学研究教育センター・センター長	研究責任者
佐井 旭	北海道大学・アイヌ・先住民研究センター・助教	共同研究者
ニャンベ・シコポ	北海道大学・アイヌ・先住民研究センター・助教	共同研究者

2. 日本側研究チームの研究目標及び計画概要

プロジェクトを円滑に実施し、メンバーとのコミュニケーションを深めるために、月例オンラインミーティング、プロジェクトウェブサイトの作成、メーリングシステムと共有ドライブを含む Google アカウントの設定を行った。4 か国の研究チーム間の定期的な議論のためのシステムを構築し、プロジェクトのワークパッケージ（WP）について、各カウンターパートと議論を行った。

2022 年度の研究目標は以下の通りである。

- 各国の研究チームに対する研究倫理申請の支援
- 各ワークパッケージ（WP）構築のためのワークショップの開催
- WASH レビュー（文献、健康管理システム）の実施（WP1）

- 調査地マッピングと環境アセスメントのためのデータ収集ツールの特定（WP2）
- 子どもと若者を対象にしたトレーニング・活動マニュアルの作成（WP3）
- 科学教育支援のためのソーシャルメディア・プラットフォームの構築（WP4）

3. 日本側研究チームの実施概要

2022年8月に、ザンビア、ボツワナ、南アフリカを訪問し、各カウンターパートとミーティングを行った。現地訪問中にワークショップを開催し、各調査地の異なる背景に留意しながら、プロジェクトワークパッケージについて議論を行った。

各国で選定された調査地を視察した（南アフリカ・Durban、ボツワナ・Palapye Town、ザンビア・Kafue Town）。各調査地の自治体とミーティングを行った。ザンビアおよび南アフリカでは、自治体のみならず地域住民に対して、プロジェクトについて説明する機会も持つことができた。さらに、本プロジェクトに参加する大学院生や若手研究者と議論を行った。また、北海道大学の大学院生2名がザンビアに赴き、都市近郊のWASH環境を評価するためのデータ収集ツールのパイロット調査を施行した。

帰国後、研究倫理申請、データ収集、キックオフシンポジウムの計画について各カウンターパートと定期的にオンラインミーティングを行った。2022年12月13日に本プロジェクトのキックオフシンポジウムを開催した（オンライン）。シンポジウムには、世界10カ国以上から86名が参加した。来年度は、シンポジウムの成果をもとに、国際学術誌において特集号を刊行する予定である。



a)



b)



c)



d)

- ザンビア・ルサカのハーベスト大学にて、日本チームによるザンビア研究チームとのワークショップにおける発表
- 南アフリカ・ダーバンにおける未計画居住区の視察
- 日本チームによるビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団の「Re-inventing the toilet prototype II」視察（南アフリカ・ダーバン）
- COCO-WASH プロジェクトキックオフシンポジウム（オンライン）